

市内の 主な花火大会

立江八幡神社 秋季例大祭

9月14日(土)・15日(日)
立江町(立江八幡神社)

名物の奉納花火大会は、初日である9月14日(土)の午後8時30分開始予定です。

沖神社祭 (元根井花火大会)

9月14日(土)・15日(日)
小松島町(元根井漁港)

夜空を彩る花火大会は、初日である9月14日(土)の午後8時開始予定です。

横須まつり 『花火大会』

10月12日(土)・13日(日)
横須町(小松島競輪場)

小松島競輪場内で観覧できる花火大会は、初日である10月12日(土)の午後8時開始予定です。

【お問い合わせ先】

市産業振興課(市役所4階)

TEL 32・3809

FAX 33・0938

立江では、吹筒花火を「立つ火」と書いて「たてび」と呼び、花火は「たく」と、焚く台を「炎が立」と書いて「ほたて」と呼びます。「練り込み」は、祭礼の当日地区の古老が歌う伊勢節と共に拍子木を打ち鳴らし鳥居をくぐり社殿でお祓いを受けることで、昔日には、上半身裸になりほたてに立て掛け、はしごによじ登り火の粉を浴び拍子木を打ち鳴らしました。

歴史的には、信州より天文年間に入部した小笠原氏が、花火の製造技術を氏子に習得させたことに始まるともいわれています。また、明治期に書かれた秘伝書等が現存しています。

古くは、制作する人たちを組と称し(矢若組・宮の丁青年部)立江西崎地区・大林・豊浦地区12地区に分かれ、各地区青年が何々組と称し、制作し奉納していましたが、火薬の取り締まりが厳しくなると共に伝承者の不足となり組が衰退期を迎えました。そこで危機感を持った有志たちが、平成元年に煙火保存会を結成。危険物取り扱いの資格を取得し、



安全講習や機会を捉えては制作の勉強会を開催し、後進の指導・育成と花火の伝承に努め今に至っています。

